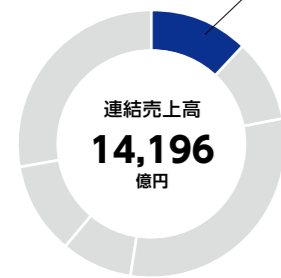




# モビリティセグメント

## 2021年実績



### モビリティセグメント

売上高 **1,738億円**

営業利益 **△20億円**

自動車部品 **1,313億円**

リチウムイオン電池材料 **395億円**

## 経営指標

EBITDAマージン  
(2025目標)  
**20%以上**

## 長期ビジョン実現に向けた戦略

モビリティ事業においては、CASE、特にxEV化の進展に伴う技術ニーズの高まりを事業機会と捉え、成長戦略として当社の軽量化、電動化、熱制御の技術を活かした事業を展開していきます。CASE事業に伴う各ニーズをキードライバーとし、市場成長を取り込むことで成長を図っていきます。また、2021年に50%程度だったCASE関連製品の事業比率を2025年には65%まで高められるよう、事業ポートフォリオをマネジメントし、EBITDAマージン20%超達成を目指します。

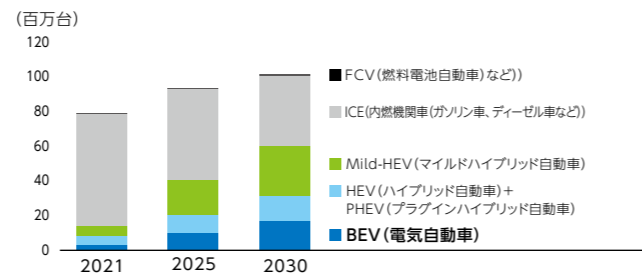
	2021年 実績	2022年 計画	ありたい姿(2030年)
<b>自動車部品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産台数は前半、新型コロナウイルスによる減産から回復したものの、年後半より半導体供給不足による減産の影響を受け、当初計画から業績下ぶれ</li> <li>新車種向けバックドアモジュールや銅フリーディスクパッドを計15車種で立ち上げ</li> <li>中国・武漢にバックドアの製造拠点を設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体供給不足の影響は継続するものの、年後半には回復基調へ戻ると予測しており、増収増益を計画</li> <li>新車種向けバックドアモジュールや内外装製品、銅フリーディスクパッドなどを立ち上げ。供給責任を果たすためサプライチェーンマネジメントを強化</li> <li>軽量化・電動化・熱制御技術など、次世代自動車に求められる製品・技術に積極投資</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニッチ市場をターゲットに、成長事業に積極投資することで、トップシェアを実現</li> <li>コア成長事業でEBITDAマージン20%以上の達成を目指す</li> </ul>
<b>リチウムイオン電池材料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HEV向け負極材の採用車種拡大および特許網を確立</li> <li>アルミラミネートフィルム(SPALF)能力拡大、導電助剤(VGCF)2021~2022年大型販売確約合意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>急速充電性能など次世代EV向け技術ニーズに対応する負極材の新製品開発を加速</li> <li>SPALFのハイエンドモデル認定取得、SPALFおよびVGCFの着実な能力増強と強靱なサプライチェーン構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CASEの進展、カーボンニュートラルの実現に向けて、ニーズの高まる市場を取り込み、1,150億円の売上を目指す</li> </ul>

## 市場における競争優位性

現在、モビリティ市場は大きな変化を迎えています。カーボンニュートラルなどの社会課題への対応を目的に、各国のCO<sub>2</sub>排出量目標値が10年で30~40%引き下げられるなど環境規制の強化により、電動車(EV)需要の拡大が進んでおり、今後10年以内にEVは自動車全体の半数以上になると試算されています。EVの中でも、ハイブリッド自動車(HEV)は2035年以降、EUでの販売が禁止となる予定であり、当社は長期拡大が確実視される電気自動車(BEV)で事業を拡大していく予定です。

## パワートレイン別グローバル生産台数予測

IHS生産台数予測(2020年8月)



## 暮らしと製品の関わり

モビリティ事業ではCASE\*1進展に伴う各ニーズをキードライバーとし、拡大する自動車市場のニーズを取り込むことで成長を図ります。そのためには、新たな技術ニーズへの対応が必要であり、当社では、軽量化や小型化、電動化に伴うバッテリー関連、熱・音・電磁波の制御などの材料ソリューションと、部品のモジュール化などのシステム設計に役立つモジュールソリューションを提供していきます。

また、ニッチ市場をターゲットに、積極投資することでトップシェアを目指していきます。

具体策として、外装成形品では樹脂バックドアモジュールの軽量化やデザイン性に強いニーズが見込まれるセグメントをメインターゲットとし、既存顧客における採用モデル拡大や新規顧客開拓を進めます。複合成形品では主力製品である樹脂ギヤのトップシェアを維持しつつ、電動化に向けた各種熱マネジメント製品で新規顧客開拓を進めます。先端電池材料向けでは、SPALFのさらなる品質向上や顧客の開発ニーズを満たすサービスモデルの構築により、モバイル分野でのトップシェアを目指します。

\*1 CASE(Connected:コネクテッド、Autonomous:自動運転、Shared & Service:シェアリング/サービス、Electric:電動化)

## 社会課題解決に向けた共創型化学会社としての取り組み

### MI(Materials informatics)による開発力強化の推進

CASEの進展やカーボンニュートラルへの対応など、新たな技術ニーズや価値基準への対応に加えて開発期間の短縮が迫られるなど、開発スタイルにおいても変革が求められています。主要カーメーカーやサプライヤーでは、車両システム全体から末端部品の機能や必要性能をモデル上でシミュレートするMBD\*1の構築が本格化しています。MBD活用では、データベースから材料を選定しMIを用いてさまざまな材料の組み合わせを想定、CAE\*2解析などと紐づけることでバーチャル上で試作&評価を実施する開発スタイルが可能となります。さらに、各ステークホルダー間でデータ・モデル情報の共有が可能となれば、材料~部品~モジュール~車両システム設計をシームレスにつなぐスピーディーな車両開発の実現が期待できます。

\*1 MBD:Model Base Development  
\*2 CAE:Computer Aided Engineering

## モビリティ事業の成長戦略



当社全体のMI技術を用いて、モビリティ関連のお客さまと共に長年にわたり培ってきた知識と経験、ものづくりノウハウを体系的にデータ化、整理、応用することで、当社独自のMBD開発スタイルの構築を目指します。

今後はカーメーカーやサプライヤーのみならず産学官の研究機関とも連携して材料・製法開発を行い、地域施設での実証実験などを通じて社会に貢献する材料、部材、部品を引き続き提供していきます。

